



～ひまわり市場の熱き仲間たち～



教育ドキュメンタリー番組「日本のチカラ」

「POPに命を吹き込め！～八ヶ岳のスーパー奮闘日記～」

番組ディレクターがいま明かす、 心に残る楽しい取材・撮影秘話

7月9日、日曜日の朝に放映された番組「日本のチカラ」を見たお客さんたちから「感動した!」という電話がじゃんじゃん入り、その日のうちに遠方から駆けつける人もたくさんいたという「ひまわり市場」。

民間放送教育協会の番組として企画を立案し、制作を手がけた山梨放送のディレクター・穀田慎也さんが、スペシャルインタビューに応じて「ひまわり市場」の魅力を語ってくれた。(文・佐々木 知勢子)

ワクワクする店内はまるでライブ会場のステージ!

火曜日の午後4時。ひまわり市場で恒例の「鮭の切り立て」が始まる。あれよあれよという間に長蛇の行列ができ、鮮魚部門の担当、21歳になる「たくまさん」が店の真ん中で鮭一尾を切り身に分けていく。「若者と鮭はアツイ方がいいんです!」。那波社長のマイクパフォーマンスも冴え渡り、店内はますます活気づく。

「ひまわり市場に入るとワクワクします。そこはまるでライブ会場。売場がステージになってエンターテインメントが繰り広げられ、まさに八ヶ岳のびっくり箱ですよ」と穀田慎也さん。ひまわり市場に密着取材をし、ご自身が手がけた番組の中でも「鮭の切り立て」のシーンを紹介したという。



「日本のチカラ・POPに命を吹き込め!～八ヶ岳のスーパー奮闘日記～」は、7月9日に放映されるやいなや、大反響。「日曜日の早朝番組をこれほどたくさんの方が見ているとは正直思わなかった」と嬉しい悲鳴を上げたのは那波社長。6時半から始まった30分番組を見終えたお客さんが全国津々浦々からかけつけ、当日の開店時間9時半にはまさかの大量入り満員。わずか1時間で、まずレタスが売り切れてしまったという。

生産者との深い結びつきから生まれるPOPの吸引力

穀田さんが番組のテーマに据えたのは、那波社長の作る商品POPだった。SNSなどでも「引き込まれる!」と多いに話題になっており、前から着目していたが、何より、地方の中・小スーパーが業績低迷にあえぐなか、そのアツイPOPでひたすら売上げを伸ばしている「ひまわり市場」の秘密を探りたい…という思いが強くあった。

「那波社長は、商品の作り手の気持ちを汲み、POPを通してお客さんに伝える。つまり、どのPOPにも生産者それぞれの情熱が詰まっているんですよ。だからこそ消費者の信頼を得られ、ここまでの誘客効果が出ているのだと取材を通してよく分かりました」と穀田さん。

「那波社長がOKなら私たちも番組撮影OKです」と快諾してくれた「のらごころ」メンバーの畑にも、穀田さんは足繁く通ったそうだ。八ヶ岳の大地の力を活かし、じっくり育てたレタス一つ一つに込められた彼らの思いを共有し、番組内でも主として紹介。なるほど…それで、放映当日にまずレタスが売り切れたのだ。

「那波さんは、さまざまな生産者の方と実に深く交流されています。そうでなければ生まれない名文句もいっぱい。中でも私がおもしろいなあと思ったのは『腰のキレも頭のキレも抜群!な男が育てた八ヶ岳湧水鱒』でした。腰のキレって何?!と思って生産者の大柴さんに取材をしたら、真っ先に「よく一緒に行くカラオケで私が腰を振り、踊っているからだと思います」って答えが返ってきて。楽しいおつきあいの背景が伺え、嬉しく収録しました」。穀田さんは思い出しながら笑う。



▲「制作後は、伝えきれなかった思いや反省点も出てきますが、またそれを次の番組づくりに活かしていきたいと思います」。

一人一番組が作れるほど個性豊かなひまわり市場のプロたち

番組でも語っていたように、今までに作ったPOPは1万枚以上、データは保存せずに消してしまうが、POP自体は捨てずに取っておくという那波社長。その全てが「ひまわり市場」の歴史になって残っているのだ。「日本で一番記憶に残るスーパーにしたい」という熱いメッセージが番組の最後を締めくくり、「テレビを見て感動した!」と視聴者からの電話や来店が殺到した。



「山梨放送で活躍する穀田さんの企画が民間放送教育協会に採用され、うちの店が教育ドキュメンタリー番組で紹介されることに決まったと聞いたときは、栄誉のあることでとても嬉しかったです。その上、こんなにもたくさんの方に反響をいただけて感無量ですね」と那波社長。民間放送教育協会(民教協)は、地域を代表する34の民間放送局が、既存のネット系列を越えて共同企画・制作をし、全国放送をする組織で、電波による生涯学習普及を目指しているという。「日本のチカラ」は民教協の代表番組であり、山梨放送が制作した今回の番組は、テレビ朝日など全国の加盟局で放送された。

半月ほどのロケ中にすっかり「ひまわり市場」のおなじみになった穀田さんは、お客さんからお店の人だと勘違いされ「お兄さん、金精軒のお菓子はどこにおいてある?」と聞かれた際、つい案内までしてしまったそうで、従業員の皆さんとも日々交流を深めたという。

「ベテランの職人さんも若手のスタッフさんも、女性も男性も、みんなひまわりみたいに明るい笑顔で、個性豊か。それぞれキャラクターがしっかり立っていて、これはもう間違いなく、一人一番組が作れますよ!」。

穀田さんは心に残る笑顔でそう語った。

穀田 慎也さん (42歳)

笛吹市在住、宮城県出身。1998年に山梨放送に入社。アナウンス部、報道部を経て、現在はテレビ制作部の副部長。番組制作ディレクターとして活躍している。昨年の夏、『ててて!TV』のコーナーでひまわり市場を取り上げたことから那波社長との交流が始まり、この度、民教協の番組「日本のチカラ」の企画・制作に至った。

男の子2人、女の子1人の父親。「ひまわり市場で取材している間は、その楽しさが帰宅後、家族にも伝わっていたみたいです」と笑顔で打ち明ける。



目指しているのは「八ヶ岳のびっくり箱」

ひまわり市場

北杜市大泉町谷戸 3905

TEL.0551-38-4744

http://himawari-ichiba.com/

ホームページ見てね!! ひまわり市場

営業時間

9:30~20:00

年中無休

検索



ひまわり市場お買いもの支援、好評により12/31まで継続中!